

義足装着後の断端の合併症について

1．接触性皮膚炎

外界物質の刺激（ソケット材質の不適合）によって引き起こされる湿疹の一種で、紅斑、腫脹、水疱形成など、急性滲出性炎症を呈する。予防として、ソケット材質にはパッチテスト陰性のものを使用する。

2．摩擦性皮膚炎

汗の滞留、うっ血、摩擦などにより比較的明瞭な発赤と浸軟、落屑などを示し、容易に湿疹化し、二次的感染を引き起こしやすい。大腿切断者の断端上縁及び会陰部に好発する。アライメント及びソケット適合のチェックを十分に行うと共に、ソケット内部及び断端皮膚を常に清潔に保つ工夫が必要である。

3．毛囊炎

毛囊に一致して浅在性膿疱を生じるもので、表皮ブドウ球菌によっておこる。予防としてソケット内部及び断端皮膚の清潔に十分注意する。

4．白癬

皮膚に紅斑を生じ、辺縁に小水疱、丘疹が配列、鱗屑をみるもので、白癬菌と表皮菌、小孢子菌などの皮膚系糸状菌によっておきる。予防法は清潔に心がけることである。

5．胼胝・鶏眼

慢性に持続する機械的刺激によって角質層その他の上皮細胞層が強く肥厚したもので、しばしば圧痛を訴えることがある。とくにショパール、リスフラン離断などにおいては歩行時に大きな問題となるため、十分な管理・指導が必要である。

ソケットの適合を十分に行い、局所的に圧迫・荷重が加わらないように配慮し予防するとともに、局所温浴、スピール膏、ピック膏などの塗布、または胼胝腫切除により治療するが、再発しやすい。したがってショパール、リスフラン離断のように足部の変形が原因となる場合には、腱移行術など観血的に変形を矯正し、局所的な圧迫を除去するような方法も行われている。

6．断端の浮腫

健康成人においても下肢の周径は午前より午後に、低温時より高温時に増大する傾向があるが、評価の項でも述べたように断端部においては循環効率が低下しており、さらに浮腫を引き起こしやすい状態におかれている。一般的には義足の装着により浮腫は改善されていくが、誤ったバンテージング及びソケットの不適合は遂にこれを助長し、疼痛を生じることもある。特に吸着式ソケットでは死腔が存在しているような場合は遊脚層において断端に作用する陰圧はさらに浮腫を強め、結合組織の肥厚や血管の異常増殖を引き起こす。これは断端浮腫症候群と呼ばれ、特徴は、断端の腫脹、色素沈着、乾燥した皮膚の3つである。適切なバンテージングおよび適合したソケット装着によりこれを防止、改善する。

文献引用「Q & A フローチャートによる下肢切断の理学療法」

編著：細田多穂

編集協力：篠崎弘司・原和彦・中山彰一・石倉祐二

出版：医歯薬出版株式会社